

中世のサムライヒーロー

# 楠公さんを 知ろう

第1回

楠公さんのコラムが  
はじまります

1331年（元弘元年）、後醍醐天皇が北条氏執権の鎌倉幕府討伐をくわだてると、河内一帯に勢力をひろげていた豪族の楠木正成たちもそれに呼応して挙兵しました。

軍記物語「太平記」によれば、正成は敵の意表をつく様々な知略を巡らしました。例えば、赤坂城の戦では塀を二重にして、近寄る敵めがけて塀を倒し下敷きにしたり、大柄杓おしやくで熱湯を浴びせるなどで防戦。また、千早城の戦ではわずかな兵で立てこもり、幕府の大軍を苦しめ、ついに鎌倉幕府滅亡につなげました。

その後、後醍醐天皇による「建武新政」が実現し、功績が認め

られた正成は摂津・河内の守護となり、多くの所領を与えられます。

1336年（建武3年）、後醍醐天皇から反乱した足利尊氏を討つよう命じられた正成は、新田義貞とともに尊氏と戦い、一時は九州まで敗走させました。しかし、諸国の武士を味方につけた尊氏は軍勢を増強しながら東上。失政を目の当たりにした正成は和睦を天皇に上奏します。が受け容れられず、尊氏軍を一旦、京に入れ兵糧攻めにする作戦も却下されてしまいます。それでも正成は、天皇の命に従い、わずか700騎余の軍勢で兵庫湊川へ向かい、激戦の末、最期は弟の正季まさすけとともに壮絶な自害を遂げました。享年43歳。

わずかな兵で智略をもって大軍と対峙した戦略家である一方で、敵味方を問わず相手を敬う愚直な生き様は今も多くの人々を魅了してやみません。活躍の舞台となった戦跡や寺社を巡ると、中世のサムライヒーロー「楠公さん」の息づかいを感じるようです。そんな楠公さんの魅力について、隔月シリーズでお伝えしていきます。どうぞお楽しみに。